

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

スマイル & チャレンジ！ みんなつながる南台
○自ら課題を見つけて学習に取り組み、考えを深めたり表現したりする力を育てます。(知)
○感謝の気持ちや思いやりの心をもって、他者を大切にできる態度を育てます。(徳)
○基本的な生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)
○まちとかかわりを通してそのよさに気づき、進んで地域にかかわったり地域を大切にしたりする態度を育てます。(公)
○人ととのコミュニケーションを通して、視野を広げ、ともに生きていく力を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<言語能力>
<心身ともにたくましく生きる力>

具体化した資質・能力

言語能力…語彙を増やし、目的や相手に応じて自分の立場や考えを明確にして分かりやすく伝えようとする。
心身ともにたくましく生きる力…運動に親しみ、基本的な生活習慣の向上と改善を目指す。

中期取組目標

○「新しい生活様式」に則りながら、三年間を通じて次の目標に取り組みます。
・授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともにタブレット端末等を活用して、伝える・伝わる力を伸ばす授業づくりを進めます。
・安全に行動する能力や健康な生活を営むための生活習慣が形成できるようにします。
・港南区地域福祉保健計画を踏まえ、さまざまな活動を通して、まちとつながる思いや姿勢を育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (朝モジュールや宿題の計画的な実施により、基礎・基本の定着を図る。)

学力向上に関わる本校の状況
学力について、市の平均を越えている学年は、現3年と現4年、他学年は市の平均未満である。令和元年度と比較し、全校としての結果は、低下が認められた。生活意識や学習意識に関しては、どの学年においても、概ね市の平均値と同程度か、上回っている。しかし令和元年度と比較すると低下が見られる。そのため学習に対する意義や必要感をもたせ、達成感や満足感を体験させて自己実現へとつなげていくことから始め、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るようにしたい。また、本校の児童は自分の思いを相手に伝えるときになかなか言葉にできないという課題がある。今後個に応じた指導や各教科における総合的、横断的な学習も必要であるとする。

今年度の目標
学習への意欲を高めることで基礎的・基本的な内容の理解を深める。
自分の考えをもち自分の言葉でわかりやすく伝え合う力を身に付けられるようにする。
目標を実現するための具体的行動プラン
学習状況調査の結果から、国語科の「知識・理解・技能」、算数科の「数学的な考え方」などにおいて課題が現れたため、朝学習を充実させるとともに、子どもたちが必要感をもって学習に取り組めるような授業を行うことで意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。また、学習の理解を深めるためにタブレット端末の効果的な活用の方を工夫する。どの教科においても主体的に問題解決に取り組めるような学習活動を行い、自分の考えをもって学習に取り組めるようにする。また、特に国語科において、自分の言葉で考えをわかりやすく伝える力を身に付けるために、言語活動を工夫し授業改善に取り組む。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (① 学校生活全般を通して、一人一人のよさを認め大切にすることで、自己肯定感を高めていく。)

豊かな心に関わる本校の状況
近年の新型コロナウイルスの拡大により、地域行事や学校行事が十分に行えない状況が続いている。そのため、異学年交流や地域の方々とかかわりも減少している。学習の中で、自分から進んで挨拶したり、人とかかわったりすることにやや消極的な傾向が見られる。人の気持ちを考えて行動していると考えられている児童の割合も少ない。

今年度の目標
○道徳やたてわり活動を通して、自身のみならず相手や周囲の人たちへのかかわり方を深める。
○各学年の校外学習・体験学習等や人権週間を通して、協働することの素晴らしさや他者を思いやる心を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
○道徳教育
・全学年の「特別の教科 道徳」の授業を、家庭・地域に向けて年に1回以上公開する。
・学級懇談会・学年懇談会などで、道徳教育や「特別の教科 道徳」の時間について話題にし、家庭と共通理解、連携を図って指導にあたる。
・道徳掲示板を設置・活用し、「特別の教科 道徳」の学習について、家庭・地域に発信するとともに、学校内での互いの取り組みを知り合うことで、「特別の教科 道徳」の充実を図る。
○たてわり活動
・たてわりの「異学年交流活動」を行うことで、グループ内で互いを思いやる気持ちや協力しようとする気持ち、積極的に他者とかわる力を育て、発達段階に応じた心の成長を育む。それぞれの学年行事で児童に役割をもたせ、主体的に取り組めるようにする。
下半期
○人権週間
・人権週間の取り組みとして、毎年行っている「人権俳句づくり」を今年も行う。人権に関わる言葉を考え、選り、学年に応じて、標語、俳句、短歌を選択し作成する活動を通して、人権について考えるきっかけにしたいと考えている。また、司書教諭に人権に関する本を選書してもらい、担任の読み聞かせを実施する。本は、職員室に常置しておき、人権週間に、積極的に読み聞かせを行うことができるようにする。
○あいさつ運動
・委員会の取り組みとして、毎朝2か所の門に立ち、登校してくる児童に元気づけ挨拶をする活動を続けている。その場所では、元気づけ挨拶するもの、決められた場所以外では、なかなかすんで挨拶することができていない。上手に挨拶している児童を称賛し、少しずつ気持ちのよい挨拶の輪が広がるよう、根気よく児童に声掛けを続けていく。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (① 感染症対策を講じながら、体育科学習、休み時間、ベア活動を利用した運動の充実を図り、心身の健康の保持増進を目指す。)

健やかな体に関わる本校の状況
(1) 健やかな体に関わる児童の実態
○横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合が全校で9割を超えている。また、学年が上がるにつれて、1日に携帯電話、スマートフォン、タブレットを使う時間が増えている傾向がある。
○健康診断では、視力の低下、肥満傾向の児童が目立つ状況である。
(2) これまでの学校の取組状況
○体育科では、感染症対策を行った中で、本来のカリキュラムに沿って学習を進めてきた。
○運動委員会を中心に外遊びを呼びかけ、全校児童が運動に親しむことができるようになってきた。

今年度の目標
○休み時間、ベア活動に進んで取り組み、運動に親しむことができるようにする。
○食事の大切さ、健康に過ごす具体的な取り組みを考え、基本的な生活習慣の改善を目指す。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
○運動委員会を中心に、休み時間の外遊びの推進、病気に負けない体づくりを目指すようにする。
○自己の体力を知るために、体力テストや体育科基本調査の結果などを踏まえて分析する時間を設ける。分かったことを、体育科学習や、自分の生活改善に生かすことができる。
○SDG's委員会を中心に食育タイムの充実を図り、栄養バランスの摂れた食事の大切さを理解できるようにする。
○タブレット端末を活用し、自分の運動の実態を知り、課題解決の有効な手段とする。体育科学習を有意義な課題解決にすることで、主体的・対話的で深い学びにつなげることができるようにする。
○健康委員会を中心の手洗いの奨励、けがの防止策について、全校に呼びかけを行う。
下半期